

日本女子大学文学部日本文学科の先輩たちから あなたへの親身なメッセージです。

K. O. (2015年度卒業 日本銀行勤務)

「私は、卒業生です。…」

こうして皆さんに向けたメッセージを書いていると、新入生の頃あれこれ考えていたことが、懐かしく思い出されます。

自由だからこそ、自分で自分のことを律さなければいけない不安とか、目の前のちょっとした決断によって、今後の人生がどんどん決まってしまうような怖さとか…。今まであんなに自分を守り、導いてくれた小中高の先生や友達から急に放り出されて、まるで大草原に一人ぼっちになってしまったようです。

でも、実際の大学は、そんな恐ろしいところではありません。ある時先生が、授業中にこんなことをおっしゃいました。

「社会に出たら、理不尽なことも沢山あります。大学は、その一步手前にある皆さんの居場所です。だから私は時に厳しく接し、時に励まし、皆さんを社会でも充分通用する人にします。」

本当に心強い、温かい言葉でした。

それにももちろん、あなたのすぐ隣には、あなたと同じように不安を抱えて、そして同じように日本文学が大好きな女の子がいます。

皆さんは今、とても素敵な環境を選ばれました。どうぞそのことを誇りに思って、4年間を楽しく過ごされますように。卒業生として、心から応援しています。



M. I. (2017年度卒業 下野新聞社勤務)

「私は、卒業生です。…」

合格おめでとうございます。

日本文学科はご存じの通り、日本の言語や文化、文学をより深く、存分に味わうことのできる場です。好きな分野を掘り下げて学ぶことは楽しく、そして苦しくもあります。先行研究を探し、正しく理解し、課題に向き合い、論を構築していく。決して容易ではなく、誠実さや地道さが求められます。

すこし不安になってしまいましたか？大丈夫です。先生方が皆さんを温かく見守り、親身になってサポートしてまいります。そしてなにより、もがいているうちに必ず表現力や理解力、粘り強さなどあらゆる力を自分のものにすることができます。

私は現在、地元の新聞社で記者をしています。情報を集めて精査し、常に考え、正確な記事にするのが私の仕事です。時には簡単に情報に辿り着けないことや記事を厳しく校正されることもありますが、大学で培った力を支えに情報や言葉と向き合っています。

大学4年間は瞬く間に過ぎてしまいます。ぜひやりたいことをやり尽くし、濃い大学生活を送って



ください。

N. I. (2016年度卒業 神奈川県立相原高等学校教員)

「私は、卒業生です。…」



私は幼い頃からの国語の教員になる夢を胸に本学へ入学し、教職課程を履修しました。その中で、ただ知識を吸収するだけではなく、思考し自分の言葉で表現する力、これが真の「国語力」なのだと学ぶことができました。この力は今、子どもたちの育成すべき資質能力の一つでもあり、教育における国語科の重要性を感じました。

また、文学、言語を学ぶことの面白さを改めて実感しました。高校までの学びとは違う、学ぶ度に生まれる胸のときめきや感動する喜びを、先生方から教えて頂きました。次は私が、本学の先生方のように、この溢れる熱い！感動を伝えたい、そのためにはどうすればよいのかを考え始めた時から、教員への「夢」が具体的な「将来のビジョン」へと変わり、新年度からは教員として教壇に立つことになります。

国語はすべての学びの根底にあると言われています。私たちが人間らしく豊かに生きていくための基となる学問です。皆さんが4年間、日本文学科で出会うそれぞれの学びが将来の自分の蓄えとなることでしょう。

A. S. (現4年次) 「私は、自己推薦*でした。…」



新入生のみなさん、合格おめでとうございます。ようこそ日本女子大学日本文学科へ！日本女子大学が第一志望だった人・そうではなかった人、それぞれが様々な思いを胸にしていることでしょう。

私は自己推薦入試で本学に入学しました。大学生活が始まるまで、一般入試で入学する人達についていけるのか、どのように講義が進められていくのか、など多くの不安でいっぱいでした。しかしざ大学生活が始まってみると、毎日が楽しくて楽しくてしょうがないです。勉強面では、講義が少人数のため先生方との距離がとても近く、分からない事・疑問に思ったことを直接聞きに行くことができます。また、お互いに目標を持ち、切磋琢磨して高め合うことのできる友人がたくさんできました。私は他にも、合唱サークルや TFT というボランティア団体にも所属し、活発に活動しています。

「二兎を追う者は一兎をも得ず」と言いますが二兎も三兎も追えるのが大学生です！一緒に大学生活を楽しみましょう！！

*2020年度入試まで実施、2021年度より総合型選抜入試に変更。

Y. H. (現4年次) 「私は第一志望ではなかったのですが…」



私はもともと私立の他の大学が第一志望だったのですが、上手くいかず日本女子大学に進学することになりました。当時は第一志望に合格した友達をみて羨ましく思ったり、今まで男女共学だったので女子大に対する不安などでいっぱいでした。しかし、入学してからはこれらの思いは払拭されました。授業は少人数制のものも多く、発表を行った際には先生からのご意見を直接貰うことができ、再度考察し考えを深めるような習慣ができました。それから「現代女性論」など女子大だからこそ学べる女性のことに関する授業があり、自身の視野も広めることができました。また、大学の友達は優しい人ばかり

で、切り替えて大学生活を楽しむ方が自分が成長出来るのではないかと気が付くことができました。これはもしかしたら別の大学に入学していたら分からなかったかもしれません。日本女子大学の授業、環境、友達が私の考え方をさえさせてくれたのです。今では、大学での全ての出来事に感謝をしています。

中にはまだ複雑な気持ちでいる人もいるかもしれません。しかし、4年間をそんな気持ちで過ごすのはもったいないと思います。大切なのは置かれた場所で咲くことです。様々な経験をして一生に一度しかない4年間を是非楽しんでください！みなさんならできると思います！

S. H. (現3年次) 「教職課程を履修しています。…」

合格おめでとうございます。

振り返れば、私自身も入学当初は日本文学科について、イメージは持ちつつ、具体的な授業内容までは分からず、緊張と不安の嵐。

そのような私が、今では日本文学の”学び”にどっぷり浸かり、教職課程を履修しています。人生何が起こるか分からないとはまさにこのこと！ 教員を志すようになったのは、日本文学科へ入学後、先生方の講義を受け、文学に対する熱を感じる中、学ぶという、底のない魅力に向き合う楽しさに気付くことができたためでした。

人に教える立場に立つということは、その人の人生に深く関わる責任を持つということです。つまり、教職課程を履修することは、それなりの覚悟と勇気が必要だと言えます。一方で、それだけの意味があることも忘れてはなりません。教職課程の授業では、先生方が教育者の立場から、共に学問について考え、指導して下さります。普段とはまた違った視点で、”学び”を捉える時間は、とても新鮮なことであり、日本文学を学ぶ身としての力にもなり得るでしょう。

もちろん、教職課程に限らず、大学での”学び”全てが、特別なものです。自由な”学び”であるからこそ、自発的に学べば学ぶほど、自らの力になって返ってくること間違いなし。これからの大学生活を大切に、自分だけの“学び”を追求し、存分に楽しんで下さい！



M. S. (現3年生) 「私は、附属校から来ました。…」

新入生の皆さま、合格おめでとうございます！

皆さまはいま、これから始まる新しい生活に、様々な思いを抱えていらっしゃるでしょう。

私は本学への入学を志し、附属高校を受験しました。中学生の時、図書館司書を目指しており、日本文学科で資格が取得できると知ったからです。ですが、いまは教職課程を履修しています。数年前の自分が聞いたら驚くかもしれません。

図書館司書という目標を持って入学したものの、高校時代は理系・文系どちらにも興味があり進学先に迷ってしまいました。悩んだ結果、理系ならこの学科、文系ならこの学科と絞り大学見学で決めることに。ドキドキしながら大学の授業を見学して、日本文学科の先生方や先輩方に憧れ、日本文学科への進学を決意しました。この選択をして本当に良かったと思います。

大学では自分の興味ある分野をどこまでも学んでいくことができます。ぜひ広い視野で世界を眺め



てみてください。きっとどこかで自分だけの学びと巡り合えることでしょう。まだやりたいことが決まっていなくても大丈夫です。好きだな、と思ったものがあれば積極的に向かってみてください。好きの気持ちだけではどうにもならないこともあります。それでも好きという情熱に勝るエネルギーはないと思います。

皆さまの大学生活が実りある日々になることを心から祈っています。新年度、キャンパスでお会いできることを楽しみにしております。

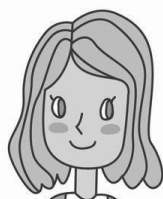
C. S. (現4年次) 「私は、指定校推薦で来ました。…」

合格おめでとうございます。皆さんは、入学に向けて、大学生活への不安と期待でいっぱいのご様子でしょう。

私は、指定校推薦でこの大学に入学しました。指定校推薦は他の入試よりも試験日が早いことから、周りの友人との学力差に不安を持ちながら、大学生活をスタートさせました。しかし、大学での学びは知識を問うものだけではなく、得た知識について自分がどう考えるのかを問うことが多いので、自分の考えを表現する楽しさに没頭するようになり、入学前の不安であった学力差は全く気にならなくなりました。

日本文学科では様々な講義を受けることで幅広い分野の知識を取得できるとともに、その知識を使って自分の主張、論を組み立てる能力を養うことができます。講義で学んだことや抱いた疑問や興味を軸に、考えを整理し、様々な情報を用いて取捨選択し、自分の根拠として利用していきます。

指定校推薦で入学した方は、すべての学びのひとつひとつを大切にしてきた方だと思うので、高校までに得た知識も大学の学びに活かすことができると思います。様々な知識を活かすためには疑問や違和感をそのまま放っておかず、興味を持って追求していくことが大切です。限られた四年間ではありますが、様々なことにアンテナを張って、大学での学びを楽しんでくださいね。



N. N. (現4年次) 「私は、編入学でした。…」

新入生の皆さん、合格おめでとうございます。今、様々な思いを胸に、入学までの日々を過ごしていることと思います。

私は高校卒業後、小学校の教員免許を取得することを目的に、日本女子大とは別の四年制大学に入学しました。しかし、すべての教科の根底となる国語教育に携わりたいという昔からの思いを捨てきれず、中高の国語の教員免許を取得するために、日本女子大の日本文学科に編入しました。教育系の学部から文学部に編入したため、同学年の学生に比べ、受けなければならない授業数が多く多忙な日々です。ここまで来るのにとっても遠回りをしてしまった、高校を卒業して一年浪人した方がよかったのではないかと、思うこともありました。皆さんも、進路決定について、これでよかったのだろうかと思悩んでいる人もいるかもしれません。しかし、私は何一つ無駄になったことはないと思っています。今の自分の選択、思いを信じてください。もしこれから先、別のものになっても、悩みぬいて出した答えに間違いはありません。



ません。日本女子大学で充実した毎日を送ることで、不安は自信に変わっていくはずです。皆さんが入学してくるのを心からお待ちしています。

❀ 日本女子大学文学部日本文学科・公式のブログ ❀

「新・当世女子大生気質—日記といふものを女子大生もしてみむとてするなり—」

日本文学科の学生たちが、自分たちの日常を自分たちのことばで綴ったブログのホームページのアドレスとQRコードです。実際の学生生活の様子を率直に伝えていますので、是非、読んでくださいね。

<http://mcm-www.jwu.ac.jp/~nichibun/blog2/>

